

## 01-026

## 子ども参加型傷害予防教育の実践とその評価

大野 美喜子<sup>1,3</sup>、西田 佳史<sup>1,3</sup>、北村 光司<sup>1,3</sup>、  
山中 龍宏<sup>2,3</sup><sup>1</sup>産業技術総合研究所 人工知能研究センター、<sup>2</sup>緑園こどもクリニック、<sup>3</sup>NPO法人Safe Kids Japan

## 【目的】

近年、子どもの傷害予防の重要性が社会に認識され始め、世界保健機関が認証するセーフ・コミュニティやインターナショナル・セーフ・スクール (ISS) の推進が進んでいる。本研究では、ISS認証校である東京都豊島区立富士見台小学校と連携し、傷害予防の基本である3つのE (Enforcement, Environment, Education) の考え方を伝える傷害予防教育プログラムを実施しその効果を評価した。

## 【方法】

5年生38名を対象に、5時間 (45分5コマ) のカリキュラムを作り傷害予防教育を実施した。具体的には、「傷害予防の3Eと予防の重要性」、「校内の危険」、「校庭の危険」、「ワークショップ」、「成果発表会」の流れで取り組んだ。ワークショップでは、生徒に、学校内の危険や安全をテーマとした写真を撮らせ、その写真にコメントをつけて発表会で共有した。すべてのカリキュラム終了後にアンケートを実施し、各Eで自分にできることの具体的な行動や、傷害予防に対する意欲の変化を調査した。意欲の変化はWilcoxonの符号付順位検定で検証した。

## 【結果】

成果発表会では、学校内の安全と危険に関する27の写真について発表した。例えば、「安全が守られている場所」には、「階段」や「相談室」の写真が収められており、それぞれの写真に対して「階段のはしには手すりが付いている。段には落ちないように滑り止めがついている」、「人に相談することで心が落ち着いて安心する」というコメントがあった。「ケガが起りそうな場所」には、「サッカーゴール」や「雲てい」の写真があり、「(ゴールにのせてある) 重石のひもに足を引っかけ転ぶ可能性がある」、「上から落ちてしまい、骨折・捻挫などのケガにつながる可能性がある」というコメントがあった。各Eで自分にできることの具体例には、「学級会などで意見を出し合う」、「安全な遊び方を考える」、「でっぱりをなくす」、「階段の手すりのトゲをきれいにする」などが挙げられ、授業を通して3Eを理解していることが分かった。授業の前後で傷害予防に対する意欲を10段階で評価したところ、授業前の平均値が6.24、授業後の平均値が7.56となり、今回のカリキュラムの教育効果を確認した ( $p=.001$ )。

## 【考察】

本研究で実施したプログラムは、子どもの傷害予防活動に対する意欲を高め、主体的に行動をおこすきっかけになっていることが分かった。